

平成28年度第1回東金市学校教育問題検討懇談会  
会議要旨

日時 平成28年5月20日(金)午前9時30分から12時15分まで

場所 東金市役所4階401会議室

出席した委員

東谷 仁 城西国際大学国際人文学部特任教授  
高橋 邦夫 千葉学芸高等学校長  
前嶋 里奈 東金市議会議員  
相京 邦彦 東金市議会議員  
宮澤 敬人 源地区会長  
岩崎 顯二 丘山小学校PTA会長  
松寄 光孝 北中学校PTA会長  
鈴木 基正 東小学校PTA学年委員長  
宮崎 孝男 東中学校長  
石川 貢彦 福岡小学校長(敬称略)

欠席した委員

内田 武 東金中学校PTA会長  
三須 芳雄 東金市区長会連合会長(敬称略)

事務局

青木教育部長、鈴木教育総務課長、松井学校教育課長、戸田学校教育課副課長、  
鈴木学校教育課学事係長

会議概要

1. 開会(午前9時30分) 司会 鈴木係長
2. あいさつ 東谷会長
3. 報告事項

懇談会要綱第5条の規定により、会議の議長は東谷会長となる。

(1)東金市立小中学校の現状等について

戸田副課長より配付資料に沿って説明した。

(主な質問等)

(委員)

3ページが一番下の北中学校のクラス数・生徒数の数ですが、説明としては平成28年度までは実数、平成29年度以降は、住基人口から推計とのことで、源地区から山武南中に行っている子どもについては実数に入っていないということによいか。可能性として行く子がいたとしても平成29年度以降については、その子については入っているという理解によいか。

平成22年度の前回の更新の時に、このクラス数の東金中学校や東中学校の想定は、人口のことなので、できていたのではないか。その中で、その段階で東金中の建て替えを行ったわけだが、その中の理由に、クラス数のアンバランスを検討しないで、単純に耐震の問題だけで作ったのかどうか。

(事務局)

生徒の推計の部分ですが、北中学校の平成28年度までの実際に通っている実数なので源地区から山武市に行っている方は入っておりません。推計のほうについては、一応、現在の状況を勘案し、おそらく今後も同じくらいの比率の方が、源地区から山武市に行く可能性があるという想定の中で出した数値である。

東金中学校の建て替えの件ですが、前回の答申の中で東金中学校の耐震改修方針ということで、特出しした項目があります。よって、生徒数にみあったといった部分では、

加味して建て替えたという状況であります。

(委員)

人数の方ですけれども、山武市が学校再編の方針を出されて、既に山武南中学校を閉鎖して、それを山武中学校と統合する。山武南中学校を小学校にすることで理解している。今現在、前回の資料の10ページをみればわかるが、山武南中学校に源地区から38名の生徒が行っている。1学年当たり13人とか12人だと思うが。その人数が加味されていないとすると、その子供たちが平成31年度に山武南中学校が無くなった時に何処に行くのかを考えていないのか。考えているのであれば、想定して人数は、引いているというのは問題のあるデータではないかと思う。この推計については見直してほしい。

東金中学校については、人数についてはよくわかる。そうではなくて、東金市全体の通学の問題や各学校のクラスのバランスの問題を検討しなかったのか。

(事務局)

まずは、1点目の推計の方です。委員ご指摘のとおり、東金市から山武市に行っている生徒の比率で出している。山武南中学校が廃止になったあとの年についても、山武市の学校に行くという形で作っている。

(事務局)

東金市全体のことを考えて検討したのかという質問ですが、この時点では、まず耐震・安全ということで東金中学校建設という形をとった。その時点でまだ中学校の方は4校体制でということ、前回の適正配置の報告書やこの資料の9ページの中にも記載されているが、その時の時点では、学級数があったことから中学校4校とし、第一に安全を考えて建設した。

(委員)

児童数については、平成31年度から、例えばこのデータによる（前回資料10ページ）と山武南中学校に源地区から38名の児童が行っている。そのまま38名が続いたと仮定すると各学年12・13名の子どもがいる。そうすると平成31年度からは、この38名だったという数値に12・13名の数値がプラスされる可能性があるのか伺います。

それから例えば、既に山武南中学校が閉校されるという中で、今度の山武中学校は遠いということで行けなくなるから北中学校へというような話や動きがでていているが、その辺の部分を全く加味しなかったのか。

東金中学校の建設についての事務局の説明については、了解できました。

(事務局)

推計の方については、計算の方で、そこまでの配慮が足りなかった。平成31年以降現在、山武市の中学校に行っている生徒が、北中学校に戻るということであれば減している部分がなくなるので、何名か増えてくる。

(委員)

表中の赤の部分の数値は変わってくるか。

(事務局)

詳細は、しっかりと計算する必要があるが、学級数については、ほぼ変わらないのではないかと思う。

(委員)

学級数は、どのように計算しているのか。

(事務局)

40人学級で計算している。

(委員)

全校生徒を40人で割ったら全然120人いないのだから3クラスで済むのではないか。

(事務局)

学年ごとに1クラス最大40人という計算で出している。

(委員)

この問題は、第2回目の10ページにも記載されていますが、平成31年度には山武南中学校が廃校になることは情報として得ている。その間に、市として山武市との情報交換などはしていないのか。

(事務局)

山武市との情報交換は行っていない。

(委員)

第1回の懇談会資料で児童生徒の学級数の推計の資料をもらってあるが、児童生徒数は若干の減、学級数が微妙に異なっている。小学校は、前回、平成33年度だと前回「98学級」だったのが「95学級」になっている。

中学校は、大きいのが平成39年度まで出ていて、前回「39学級」だったのが「33学級」まで減っている。この「39学級」と「33学級」の差は大きくて「39学級」だと「18学級」で割ると3つの学校、「33学級」を「18学級」で割ると2つの学校で済んでしまう。平成36年度以降は、「36学級」となり2つの学校で中学校は済んでしまうとよめる。現在の4校を3校体制にするのか2校体制にするのかという、そういった検討になってくる。10年後に2校で済むのであれば、それも含めて検討しなくてはならないかもしれない。推計の出し方は、前回と今回で同じなのか。

(事務局)

同じです。

(委員)

どんどん減っていく傾向にあるということですね。

(委員)

6ページの資料についてですが、教育委託費についてですが5,000円という単価を決めているとのことですが、大網白里市との間で協定を結んで決めているということか。全国的に一律なのか。

(事務局)

大網白里市との協定によりということ、全国的に決まっているものではない。

(委員)

ということは、自治体間でその都度決めるということか。例えば山武市や千葉市だと別の基準があるのか。

(事務局)

その可能性があるかは考えている。

(委員)

源地区から山武南中学校にいつている生徒に関しても協定を締結しているのか。

(事務局)

大網白里市以外とは協定を締結していない。東金市から山武市、山武市から東金市内の学校に来ていることもあるので、お互いに協定を結んでいない。

(委員)

そういう話し合いをもって、お金のやりとりをしないということになったのか。

(事務局)

そのとおりです。

(委員)

東金市の季美の森地区は、学区そのものを移管してしまったので協定を締結しているということか。

(事務局)

本来は、丘山小学校に来るべきだが、大網白里市にお世話になるということで、お金を払っている。

(委員)

生徒数というのは把握しているのか。東金市から何人が山武市にいて、山武市から何人が東金市に来ているのか。数値を把握しているのか。

(事務局)

前回の資料の10ページの一番下に山武市から源小学校に4名、他にも東小学校にもきている。

(委員)

今日いただいた資料の3ページと前回の資料の18ページの資料をみていただくと、今年の平成28年度の「46学級」、「1,441人」というのは実数ですよ。それで、その次の平成29年度をみると「38学級」というように激変していて、もとの前回いただいた平成29年度の推計だと「46学級」ということなので、このへんのクラス編成の計算式は、どのようになっているのか。

(事務局)

クラス数については、それぞれの学年1クラス40人で割り返して計算しております。

(委員)

例えば、北中学校を例とした場合、今年度は「116人」で「5学級」、来年度は「108人」で「3学級」になってしまう。

(委員)

将来推計のクラス数は、弾力運用を使った数字なので単純に計算では求められないのではないかと。

(事務局)

北中の例でいうと、平成29年度、1年生は「38名」予測で「40名」以内なので1クラス、2年生は「32名」予測で「40名」以内なので1クラス、3年生は「38名」で「40名」以内なので1クラスなので合計3クラスとなっています。

(委員)

前回の6クラスという推計が多すぎたのか。

(事務局)

前回の分は、山武南中学校の生徒が入っている。

(委員)

平成31年度以降は、前回の資料を見た方がよいのではないかと。

(委員)

今回の資料の方が、現実に近いという認識でよいかと。

(事務局)

在校生は、卒業までいるだろうが、その後がわからない。

(委員)

東金中学校は2クラスに減となる。

(委員)

7ページの説明で、大網白里市は東金市を具体的にしたものだとのことであったが、前回に、ここで関心事だったのが部活動による指定変更を認めているかどうかという点であった。

大網白里市は、部活での指定変更を認めている。東金市では、そういう例が無いということで説明があった。大網白里市での部活動の運用について、もう少し詳しく調べてほしい。退部した場合は、その限りではないとなっているので、元の学校に戻るのかという点についても気になる。千葉市は、自由な移動を認めているようにみえる。

(委員)

推計については、もうちょっと基本にかかわる課題なので、もう少し状況がみんな把握できて理解できるような資料を要求したい。山武市の動向もそうですし、それから1人いるかないかで学級数が1クラス増えたりもするので、推計自体は、1人の違いで40人変わってしまう推計はよくないと思うので、人数ベースで最低限必要な学級数などを

学年ごとに出せるはずですから、お願いしたい。

#### 4. 協議事項

- (1) 学校適正規模等に関するアンケート調査実施要領（案）について  
戸田副課長より配付資料に沿って説明した。各委員から指摘事項を修正し、アンケートの実施について了承を得た。  
(主な指摘・修正事項)
  - ・アンケートの調査対象に「ユニバーサル」と「ときがね幼稚園」を追加する。
  - ・問8・9のところでは通学距離についてはわかり易く変更を加える。
  - ・詳細を聞くのではなくて基本的な考え方を聞くような設問にしていく。
  - ・その他の項目の詳細については、事務局が調整しアンケート調査を行う。
  
- (2) 今後のスケジュールについて  
戸田副課長より配付資料に沿って説明し、了承を得た。